

氏名(本籍)	きたむら なおや 北村 直也 (香川県)
学位の種類	博士(医学)
学位授与番号	乙 第 79 号
学位授与日付	平成 30 年 3 月 15 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	統合失調症、発達障害、感情障害に対する認知リハビリテーション (NEAR : Neuropsychological and Educational Approach to cognitive Remediation) の効果に関する検討
審査委員	教授 金藤 秀明      教授 塩谷 昭子      教授 樋田 一徳

#### 論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

統合失調症、発達障害、感情障害に対する認知リハビリテーションのひとつとして海外では NEAR (Neuropsychological and educational approach to cognitive remediation) という方法が開発されている。統合失調症や発達障害に対する NEAR の有効性は報告されているも、発達障害に対する有効性、さらに統合失調症、発達障害、感情障害の 3 疾患での NEAR の有効性の違いに関する報告は少ない。そうしたなかで本論文においては、NEAR を施行することによって認知機能がどの程度改善するかを BACS (Neuropsychological and educational approach to cognitive remediation) という方法で評価している。その結果、NEAR が統合失調症や感情障害だけではなく、発達障害にも有効であるということが明らかとなり、また 3 疾患に対する有効性の違いも報告された。こうした検討にて、発達障害に対しても今後積極的に NEAR などを取り入れていくべきであるという貴重なメッセージとなっている。言うまでもなく倫理委員会の承認を得ての臨床的検討であり、また統計学的にもきちんと解析されていた。症例数が少ないこと、社会復帰を検討していないことなど今後のさらなる検討が必要と思われる部分もあるも、こうした点は本研究の限界として記載されていた。

認知リハビリテーションを考えた際に、今回の検討結果は臨床的に重要な知見と考えられ、詳細な検討結果が示されている。論文自体も非専門医が読んでもわかるように記載されている。研究仮説の臨床的および学術的重要性、検討方法の妥当性、結果の解析および考察などを含めて、論文全体を通して学位論文として十分な水準に達しており、学位授与に値すると判断された。

## 学位審査会（最終試験）の結果の要旨

学位審査発表会においては、最初に統合失調症、発達障害、感情障害の病態や現状の概説がなされ、現時点での問題点などが提示された。さらに海外で開発された認知リハビリテーションのひとつである NEAR について具体的な方法の説明がなされた。まず、学位審査発表ではこの NEAR を施行することによって認知機能がどの程度改善するかを BACS という確立した方法で評価している。こうした検討により、NEAR が統合失調症や感情障害だけではなく、発達障害にも有効であるという結果が紹介され、また統合失調症、発達障害、感情障害の3疾患に対する NEAR の有効性の相違点も報告された。発達障害における NEAR の有効性は今回の検討で初めて明らかとされており、この点は特に新規性があると考えられる。統合失調症、発達障害、感情障害の認知障害などを考えた際に、今回の検討結果が臨床的、学術的に重要な知見であることに関して、詳細な解説および考察がなされた。

発表の仕方に関しても、わかりやすい口調で、ゆっくりと発表できており、発表スライドも初めての方にもわかりやすく記載されていた。質疑応答においても審査委員の質問の意図を理解して、十分に対応できていた。症例数が少ないこと、社会復帰を検討していないことなど今後のさらなる検討が必要と思われる部分もあるとは思われたが、こうした点も本研究の限界として発表中に提示していた。発表全体を通して今回の検討およびその結果に関する考察はきちんとできていると考えられた。研究仮説の臨床的および学術的重要性、検討方法の妥当性、結果の解析および考察、発表の仕方など学位審査発表全体を通して、学位発表として十分な水準に達しており、学位授与に値すると判断された。